

平成30年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1491900054	事業の開始年月日	平成21年4月1日
		指定年月日	平成21年4月2日
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター横須賀佐原		
所在地	(〒239-0835)		
	神奈川県 横須賀市 佐原1-4-20		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成30年10月8日	評価結果 市町村受理日	平成31年1月28日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・グループホーム・通所・訪問・居宅があり、各サービス、見学、相談対応ができます。 ・地域のお祭りに合わせニチイまつりを開催しており、地域との交流が図れています。 ・近隣に利用しやすい飲食店や販売店が多くある事もあり、外食や外出は頻繁に行っている。 ・介護職員と医療関係者が連携を取り、緊急時など迅速に対応できる体制が整っています。
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成30年10月25日	評価機関 評価決定日	平成30年12月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 この事業所は、京浜急行線の北久里浜駅からバスで4分の「佐原橋」より、歩いて3分の住宅地にある。バス通りには、スーパーやレストランなどの飲食店がある。事業所は平成18年に開所しているが、平成21年から当法人が経営している。入口は一か所で、1階に通所介護・訪問介護・居宅介護支援事業所があり、2階と3階がグループホームとなっている。裏手側にあった果樹と桜の木は無くなり、住宅地に変わろうとしている。</p> <p>【理念を新しくする】 事業所は、今年2月に理念を新たにしている。見直しにあたっては、管理者と3名の常勤職員が全職員の意見と意見を聞きながら、前の理念より覚えやすいように整理して以下の4項目とした。1、向上心とチームワークを大切に、心が通じ合う介護を目指します 2、毎日の生活が豊かで、日々笑顔のあるほのぼのした生活が送れる様お手伝いします 3、一人ひとりのペースに合わせた介護を目指します 4、ご本人様の気持ちを尊重し、その方のペースで過ごせる環境を目指します 職員は、この中に自分の意見が反映されていることを自覚して利用者に向き合い、質の高い介護を目指している。</p> <p>【充実した運営推進会議を行う】 事業所は、運営推進会議を年6回行っている。参加者は、家族、民生委員、市の職員（年1回）地域包括支援センターの職員などである。運営推進会議に合わせて、防災訓練や薬剤師を講師に招いた「薬の勉強会」などを開催し、地域の方も参加している。防災訓練の参加者からは「災害時には、地域の独居老人の避難先として考えて貰えないか」との要望も出され検討課題となっている。次回は、地域包括支援センターの職員を講師として「認知症サポーター養成講座」を開催する予定である。運営推進会議を地域との交流を深める機会として積極的に活用し、地域に密着した運営を行っている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ニチイケアセンター横須賀佐原
ユニット名	2階、3階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を朝礼時に唱和し、さらに各ユニットの入口に提示することで共有し意識付けに努めている。	今年の2月に理念を見直し、前理念より覚えやすい様に内容を整理して4つの理念を作成した。職員は、自分たちの意見と思いが反映された理念を日々確認しながら業務に励んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会の行事に参加させて頂き、地域の方と交流を深めている。 ・日々ご近所の方に挨拶は欠かさずにできている。 	町内会に加入し、町内の敬老会に利用者が参加している。毎年中学生の福祉体験を3校から受け入れている。町内会館で行うハロウィン祭りでは、利用者と職員が準備した手作りの菓子を管理者が子供たちに渡している。2年毎に行う町内会の祭りとニチイ祭りを一緒に開催し、地域との活発な交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や地域の方からの相談を受け活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度開催しその都度状況報告している。又、意見や要望があれば、その後の業務に取り入れている。	年6回奇数月に行い、家族・民生委員・市の職員（年1回）地域包括支援センターの職員などが参加している。会議に合わせ防災訓練や地域の方が参加できる「菓の勉強会」などを開催し、地域に根ざした事業所となっている。	

5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>判断に迷う時や分からない事等は横須賀市高齢福祉課、生活福祉課、地域包括支援センターへ助言を頂きながら進めている。</p>	<p>年1回市の職員が運営推進会議に参加している。管理者は運営推進会議の議事録を市役所に持参した際に、帳票の記載の仕方について確認するなどしている。市主催の「高齢者虐待防止研修」に2名の職員が参加し、研修内容を共有している。</p>	
---	---	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修、外部研修へ参加し勉強会を実施している。 マニュアルはいつでも閲覧できるようにしている。	「身体拘束等の適正化のための方針」及び「高齢者虐待防止マニュアル」をもとに毎月全体会議で研修を実施している。玄関は通所介護事業所と共用のため施錠しているが、ユニット間の施錠は行っていない。職員はパソコンでストレスチェックを行い、必要に応じて産業医のサポートを受ける体制がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 年間研修に取り入れ、ミーティング研修を実施し職員に周知徹底している。 横須賀市の高齢者虐待防止研修には必ず参加している。 		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修に取り入れ、研修を行い学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはその都度確認をしながら納得頂いた上で進めるように常に心がけている。		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年一回顧客満足度アンケートを実施している。 また、各ユニット玄関にご意見・ご要望箱を置くことでお客様からの意見等を積極的に取り入れている。</p>	<p>家族会を年2回開催し、運営推進会議に参加する家族の代表を決めている。「行事の開催は土曜日にしてほしい」という家族からの要望により、9月の敬老会から土曜日開催に変更した。毎月、手書きの「佐原新聞」で利用者の様子や職員の異動、行事案内などを家族に伝えている。</p>	
----	---	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月一回の全体ミーティングと各ユニットミーティングを開催し職員が意見できる場を設けている。必要があれば改善をしている。・連絡ノートを活用している。	月1回就業時間外に研修やフロア会議を兼ねた全体会議を行っている。当日の就業者や夜勤明けの職員には後日管理者が伝えている。職員は9つの委員会のいずれかに属し、研修の講師を務めるなど運営に主体的に参加している。管理者は年1回「面談シート」に基づき職員と個人面談を行っているが、常に相談し合える関係を築いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個人面談を実施し就業環境、条件等の確認をしている。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修を確保している。又、社内で出来るパソコンサイトを利用し研修を行なっている。			

14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>研修への参加を積極的に勧め情報交換を行ないながら、より良いサービスを追及していける環境を提供している。</p>		
----	--	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を使用して、ゆっくりと時間をかけながら聞き取りをするようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に充分説明をし、不安があればどんな些細なことであっても丁寧に対応し、不安を解消するように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	双方から話しを伺いながらセンター方式を使ってアセスメントをし、必要な支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ニチイケアセンター横須賀佐原、基本理念をいつも意識するようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など、家族と本人を交え要望、希望など共に本人を支えていく関係を築いている。 (散歩・マッサージ) 等		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族や知人が面会に来られた際は、リビングや居室で気兼ねなく過ごして頂けるようにしている。	友人や家族らの来訪時にはお茶を出しゆっくりと過ごせるようにしている。利用者の趣味の将棋やオセロを職員が一緒に対戦したり、利用者が希望する新聞を購読できるようにしている。3階で行うカラオケの会に2階の利用者が参加できるようにするなどきめ細やかな支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し席替えなど行い支え合えるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も電話相談等を受け付け、必要に応じ支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の表情、観察と会話の中でご本人の気持ちを汲み取りセンター方式を活用し一人ひとりがどのような希望を持っているか検討している。	利用者の好きな話題（昔の趣味など）を出して「心を開いて」もらえるようにしている。他の施設から転入してきた利用者については、前施設職員から情報を丁寧に聞き取り、利用者の理解に努めて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用しご本人の気持ちから聞き取りで分からないことはご家族や以前関わっていたケアマネジャーからも聞き取りをして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用する共に各ユニットミーティングで話し合いを行い現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族への聞き取りを行なうと共に医療関係者の意見を参照し職員とカンファレンス、日常支援シート評価の作成のもと介護計画書を作成している	ケアマネジャーと計画作成担当者は、利用者と家族の意向を聴き取り、居室担当者が記入した「日常生活支援シート」や職員の意見、医療情報を活かしてケアプランを作成している。ケアプランを毎日記入する個人ファイルに入れる事で、職員は常時ケアプランを確認している。	

27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護記録、介護日誌へ落とし込みユニットミーティングで共有し介護計画に反映させている。</p>		
----	--	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療関係者のアドバイスを受け健康管理に努めている。また訪問マッサージの利用などもニーズに応じて取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーへ買い物に行き地域の方々と触れ合う機会を設けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、往診があり、ご家族様にも同席できる場を設け医療を受けられるように支援している。	事業所の連携する訪問医師の診察を受けている利用者、以前より通院している医師の往診を継続している利用者がある。医療情報は職員間で共有している。毎月家族に送付している「佐原新聞」で受診日と時間を家族に伝えて、家族が同席できるようにしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師に、その都度、医療連携報告書へ記入していただき、口頭での情報共有も行っている。		

32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した場合は早い段階でご家族、病院側と連絡調整を行い早期退院に向け病院関係者と連携を密に取るようにしている。</p>		
----	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	係りつけ医院と相談し、その結果をその都度ご家族へ報告している。また今後の見直しなど話し合い、方針の見直し、情報の共有に努める。	入居時に利用者と家族に「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し、同意を得ている。終末期には、家族と主治医とが契約を交わし、今年度も看取り介護を行っている。看取りに関する研修を毎年行い、利用者のご家族の希望に答えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の内1回は消防署立会いのもと訓練し急変や事故発生時など職員が実践力を身に付けている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。地域（副会長・民生委員）からアドバイスを受け訓練の時に活かしている。	年2回避難訓練を行っている。今年度は5月に消防署の立ち合いのもと行い、11月は夜間を想定した訓練を行う予定である。地域の民生委員と家族が参加し、「災害時に独居の高齢者を受け入れてほしい」との要望があり検討課題となっている。災害時の水・食料などは備蓄管理表で3日分を管理している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コンプライアンスや高齢者虐待防止の勉強会を行なうと共にフロアミーティングで確認している。	毎年職員は、「プライバシー保護シート」に基づき研修を行っている。トイレに誘導する際には、利用者の羞恥心に配慮して、さりげなく声掛けをしている。個人情報を含む書類は、鍵のかかるキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	雑誌や本などを活用しながら話しの中で希望、自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	ご本人希望があれば、その都度対応している。又、希望が訴えられない方には、アセスメント、介護記録等から、リズムの把握に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人希望の化粧品、衣類など本人、家族と相談しながらおしゃれができるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節、日にあった食事提供。また、盛り付けなど目で楽しめるように心かけている。食事準備などできることへの支援を行なっている。	献立作成と食材は、地元の業者に委託し、職員が調理している。利用者は、調理の下ごしらえ、盛り付け、食器洗いなどを手伝っている。利用者の希望により、寿司やかつ丼の出前を取ったり、お好み焼	

				きや焼きそばを一緒に作ったりして楽しんでいる。利用者の誕生日も、寿司やケーキで祝っている。	
--	--	--	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録や水分表を確認し水分補給が思うように取れない場合は、本人の嗜好に合わせ飲み物を提供する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを声かけ、実施している。また、歯科医師の助言、指導のもと口腔状態の把握に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用し排泄パターンを把握し自立に向けた支援を行っている。	現在おむつの利用者はなく、布パンツの利用者が5名である。職員は利用者の排泄パターンを把握してトイレ誘導の声掛けを行っている。車いす対応のトイレが各ユニットに3か所あり、1か所は浴室に隣接し失禁時にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維などを食事の中に取り入れる等、食材業者、医療関係者に相談し予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴表を活用し、ご利用者のタイミングや体調に合わせて入浴できるように支援に努めている。	入浴は週2～3回を基本とし、利用者の希望に沿った対応をしている。入浴を好まない利用者には、職員を代えて声を掛けたり、入浴の日や時間を変えるなどしている。浴室と脱衣所の温度差に注意し、暖房器具でヒートショック対策を行っている。季節のゆず湯やしょうぶ湯を楽しんでい	

				る。	
--	--	--	--	----	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣を尊重し、日々の体調変化を見逃さず、さりげなく休憩を促し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ファイルを活用し職員がいつでも回覧できるようにしている。処方変更時には申し送り、介護日誌を活用し情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式をもとにそれぞれができることへのサポートを支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩、地域の行事等、家族、地域の人々の協力を受け、出かけられるよう支援に努める。	天気の良い日は、近所を散歩したり、近くのスーパーにおやつを買いに出掛けている。年1回、近くのレストランでの外食や公園での桜の花見を行事としている。	日常の散歩以外に、外出の機会が少ない様です。外出の行事を増やすなど工夫されることを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出掛ける際には、ご入居者様の必要物品を聞き支払う時にはお小遣いを渡し一緒に支払いができるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人、家族からの電話、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節、イベントに応じて飾り付けなど共有空間の工夫をしている。	ハロウィンの飾りや行事の写真が貼られた明るいきりびんと広い廊下には、ソファ、テーブル、椅子が配置され、お気に入りの場所で過ごす利用者や談笑している利用者がいた。掃除は毎朝、職員が床掃除をし、利用者もできることを行っている。年2回清掃業者が入り、気持ちよく過ごせる場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓側部分に共用空間があり、過ごすことができる。個々の居室で自由に過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時にご本人、ご家族と相談しながら今まで使われていた馴染みのある物など自由であることを伝えている。	エアコンと壁面の照明は事業所の備品である。利用者は、カーテン、ベッド、天井の照明、タンス、テーブル、ソファ、テレビ、仏壇などを持ち込み、利用者の個性的な居室となっている。	

55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリー設計にしており手すりの設置が充実している。ナースコールがあり必要に応じて使用している。</p>		
----	--	---	--	--	--

目 標 達 成 計 画

事業所名 ニチイケアセンター横須賀佐原

作成日 平成31年1月28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	18	外出をしているが、遠方になると個人負担で公共機関を使用するため、地域での散歩や買い物、近隣のファミリーレストランへ外出に悩んでいる。	戸外にでかける機会を増やす。	要望などを聞き取り組みをする。また、行き先が遠出の場合は家族への計画案を提示し日付を決めて外出の機会をつくる。	平成32年3月31日まで
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。